歴史の道をゆく
the history of road
矢島街道 ①

矢島街道は六郷領の本荘城下で羽州浜街道（北国街道・酒田街道）と分岐し、生駒領の矢島城下を経て甑峠越えで山形の最上郡に入り、及位（旧及位）で羽州街道に合流していた。明治14年（1881）以降は本荘～矢島の間のみが矢島街道と呼ばれたが、江戸時代の矢島街道全区間を3回に分けて概観する。

起点からの二つのルート

本荘城下を出る矢島街道の起点は本荘市の中横町、由利橋に通じる道筋と、本荘市立本荘図書館敷地の南側に通じる道筋の分岐のところである。矢島藩では、古雪湊近くにあった矢島藩の米蔵が起点に考えられてもいた。

往時の古雪湊は子吉川南岸の、今の本荘漁港のところにあり、子吉川舟運の拠点だった。矢島藩の米蔵の一つが、肴町の大法寺参道脇に残っている。民間の商店の倉庫になっていてトタンを張ったりしているものの、本体部分に名残が感じられる。

道は肴町から東に桝形を二つ過ぎて中横町の角で油小路に入り、図書館の南側（美倉町・旧蔵小路）を東進。常然寺前で右折する。由利高原鉄道（旧国鉄矢島線）・本荘街道踏切の道に左折し、宅地や田んぼの景色の中を東梵天に進む。ここまでは本荘街道と重なっており、東梵天で本荘街道は左、矢島街道は右に分岐する。追分に寛政元年（1789）の庚申塔が立っている。

追分を右に分かれた矢島街道は田の中の道を約2㎞進み、薬師堂字上二本木のT字路にぶつかって右折するが、正面に天保11年（1840）の大きな庚申塔がある。500mほど進んで左にカーブすると、右手から、由利高原鉄道・薬師堂駅の南側を通る道が合流してくる。

この右手から来る道が、もう一つのルートだった。明治14年以降は、この別ルートを矢島街道とした。

別ルートは、由利橋からの道（旧国道7号）を中横町で図書館南側への道に曲がらず、そのまま南下して本荘市ガス水道局の角で右折。

桝形を経て、永泉寺に突き当たって左折する。その先で国道105号に入り、砂子下で旧道に左折し、左手に本荘城跡を見て進む。やがて右手上に大堤が近付き、薬師堂の北側の裾を巻く形で薬師堂駅の南を通って東梵天経由のルートと合流していた。

埋田から鳥海山を見ながら進む

一本に合流した矢島街道は、道なりに埋田～宮内～玉ノ池と旧道を進み、県道・本荘西目線を横断。すぐ先で国道108号を横断し、俵巻に入る。ここからが由利町である。県道はすぐ左手で子吉川橋を渡っている。

埋田の道筋左手には豊受神社があり、右手には鳥海山の見事な姿。ここに限らず矢島街道筋は、鳥海山の素晴らしい景観をたえず目にできる。宮内の道筋左手に千年余の歴史を刻む八幡神社があり、鳥居脇に文化3年（1806）の庚申塔や、大弁財天・秋葉山・牛頭天王の碑が立っている。

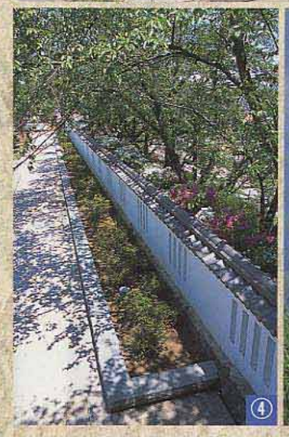
⑤

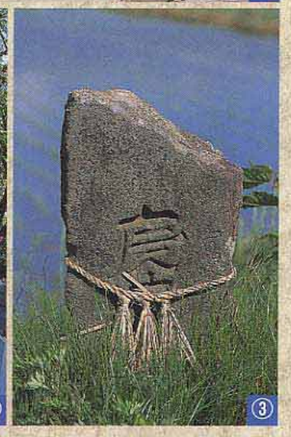
⑥

⑦

①

②


④


③

矢島街道

俵巻を過ぎた街道は、由利高原鉄道から離れて左カーブし、南福田村の村社だった日枝神社右手のところで国道108号に合流。鮎川橋を渡ってすぐ国道から左に分かれ、間もなくまた右手の国道に出る。国道に出る地点の右手の田んぼの角に、庚申塔がある。往時の鮎川は初期には徒渡りで、「立井地（たていぢ・たてぢ）の渡し」と呼ばれた。

黒沢から前郷まで

道は黒沢集落の入り口手前で国道から右斜めの旧国道に分かれる。分かれてすぐの左手、ゴミ集積所のあたりが、黒沢番所跡である。

黒沢の新山神社手前に至ると、由利高原鉄道により寸断されている。車では左手の国道に出て黒沢踏切を迂回しなければならない。

新山神社前を過ぎた街道は、明法地区のはずれで左折し、前郷の渡しで子吉川を渡り、由利町の中心集落である前郷に入っていた。

前郷は中世末、由利十二頭と呼ばれた豪族の一人、滝沢氏の小城下町でもあり、近世では本荘藩の107ヵ村の中で最も大きな村だったといわれる。

明法地区からは、今の滝沢橋付近を渡って前郷に入っていた。すぐ右手が、前郷の舟着き場跡である。子吉川舟運の主要な川港で、古雪から矢島方面への物資はここで中継された。近くに舟つなぎ石も残っている。鉄筋が刺さっているから、近代以降も使われていたのだろう。前郷での子吉川舟運は、鉄道が開通する大正末まで続いた。

前郷の渡しのほうは、今の森子橋付近が渡し場だったらしい。対岸から辿ってみると、前郷の町並みに上る手前の左手に文久2年（1862）の庚申塔がある。

①矢島藩米蔵跡（本荘市肴町）
米の積み出し港として栄えた古雪湊近くの矢島藩の米蔵跡。当時の米蔵が、このように残っているのは珍しく、軒下などからのぞく土壁が昔をしのばせる。

②大の道延命地蔵尊（本荘市東梵天）
街道の道中安全と悪疫が城下に入らないことを祈願する六体の地蔵が、本荘城下に出入りする街道筋にあったという。そのひとつ本荘街道踏切近くの地蔵さま。

③追分の庚申塔（本荘市東梵天）
JR本荘駅の東側にある庚申塔で、ここから左に行くのが本荘街道、右に行くのが矢島街道。石造物としては秋田県内で最も古い時代に建立された庚申塔。

④本荘城址（本荘市出戸尾崎）
尾崎城、鶴舞城とも呼ばれる本荘城を築いたのは、最上義光の家臣・楯岡満茂で慶長17年（1612）のこと。今はサクラとツツジの名所で知られる。

⑤埋田から望む鳥海山（本荘市埋田）
万治2年（1659）の開村とされる埋田の街道道筋から見た鳥海山。この道を、菅江真澄が天明4年（1784）矢島に向かう途中に通過している。

⑥新山神社（由利郡由利町黒沢）
新山神社は領主の武運長久、五穀豊穣を祈って鎌倉時代の文永年間（1264～75）に勧請されたという。由利氏は毎年3月20日に参詣したと伝えられる。

⑦前郷舟着き場跡（由利郡由利町前郷）
本荘・古雪湊から、川舟で矢島に向けて積み込まれた荷物は、この舟着き場でおろされ矢島まで運ばれた。この舟運は、鉄道が開通する大正末まで続いた。